

第2回大野東市民センター企画運営委員会（令和6年11月11日開催）

委員意見・助言記入シート まとめ

テーマ		各委員からの意見
1	「令和6年度上半期取組状況報告」へのご意見、ご助言	○ 住まいが4区のため、こどもだけで参加させることができない、車がないと行けない、といった距離の壁は感じた。 ○ どの活動も内容が充実していてよかった。参加者が少ないものもあるが、告知した中でのことなので、仕方ないことだと思う。QRコードからの予約ができるのはよい。 ○ 机上の学びだけでなく「体験」や「体感」によって得るものが大きいとことに共感する。 ○ 小学校の立場から、学校の中で持つことのできる体験活動の他に、こうして多くの機会をいただいていることに感謝している。 ○ 周知のための発信については、学校側でもまだ協力できることがあるのではないか。 ○ 事業方針に基づき、企画を実施されている。 ○ 夏休みこども体験 EXP0、こどもの居場所など、こどもたちがいろんな体験ができる企画は有意義。今後も継続していただきたい。 ○ 自習室開放の利用者が増えたことはよい。児童、生徒の姿が見られるのは、活性化につながる。 ○ 夏休みのこどもの企画は、地域の大人や市民センターのクラブにおける社会貢献の場となり、企画側、参加者側両方にとってよい。 ○ 総じて、こどもを対象とした事業を評価する。主役であるこどもたちが、市民センターを身近に感じることで参加者から参画者となり、将来は地域活動の担い手として成長してくれることに期待が持てる。 ○ 防災に関する取組は、市としても積極的に進めるべきテーマで、引き続きよろしく願いしたい。 ○ 幅広くよい活動をされていて、敬意を表する。
2	令和6年度「下半期事業計画（案）」へのご意見、ご助言（市民センターへ期待すること）	◆ 継続講座は受講してみたいが、同居の家族構成によっては家をあけられない人がいる。介護や育児の孤立は家に見てもらえる人が居ないことで起こっていると思う。受講中に、要介護者の人やこどもの見守り先と一緒に紹介できないか。 ◆ 上半期に市民センターで取り組まれていた企画が、各区の集会所でも催されたら近所だからと気軽に行けてよい。 ◆ 「できるときにできることを、気軽に参加」というスタンスはとても大切である。 ◆ 自習室開放は、使わせていただいている生徒にとって、とてもありがたいことだと思う。 ◆ 中学生対象の性教育は、学校で開催することが参加のしやすさにつながるかどうかは分からない。 ◆ 小さなコミュニティの形成が、今後の自分たちの暮らしのセーフティネット構築につながることはその通りだと思いつつ、自分の生活の仕方が職場中心となっており、地域コミュニティへの協力ができていないことを反省している。 ◆ なんにもしない合宿、成功を祈っている。回数を重ねるとトラブルも起きやすくなると心配している。 ◆ こどもへの情報発信について、学校のカリキュラムとのすり合わせについて考えていきたい。 ◆ 自分自身が家族の介護をしているので、興味のある分野は「介護」。しっかりやってほしい。特に、これから施設の申込みをする場合の情報がありがたい。 ◆ ネット時代なので、ブログのホームページなどでより多くの市民に知ってもらえる手段として「ネット活用」の検討をされたい。 ◆ 自分が楽しくないと参加者も楽しくない。明るく前向きに、感謝が必要。事業が終わったら、反省会をするとよい。 ◆ 防災では水平移動や垂直移動等の「自助」が根本だが、実際の場面で発揮されるかどうかは別として、隣近所による「共助」についても触れ

		ていただければと思う。 ◆ メンバーシップは焦らず、口コミで伝わっていくと思う。負担なく自然体での参加がよい。 ◆ 人間関係が希薄化していることで、社会現象として、色々な問題が起きている。こどもを地域で育てる社会を取り戻すためにも、「なんにもしない合宿 in おおの」は有効な取組だと思う。継続開催を望みたい。 ◆ 「なんにもしない合宿 in おおの」のねらいである「人と人が関わる場」、「人が人に関わる場」が地域に関心を持つということにつながる。区の構成単位である「組」は、「人と人が関わる場」であるが、「人が人に関わる場」として十分に機能していないという問題点がある。
3	日々の活動の中で感じている地域の現状や課題（令和6年度下半期事業計画～令和7年度以降の事業へのヒント）	☆ 期待する成果が芽を出すと、いきいきした地区に発展できそうで素敵である。小さなコミュニティ同士のつながりまでいかずとも、顔見知りを増やすような気軽さで広がっていくとよい。 ☆ 阿品、阿品台地区では、地区によってコミュニティの深いところ、浅いところが分かれているのは実感する。 ☆ 保護者をどう巻き込んでいくか。入学説明会や就学児健診など、区の行事でも同じ課題がある。ポストコロナの中で、事業と学校のカリキュラムを新たに関連付けられるとよい。 ☆ 小学校高学年～中学生の居場所づくりが課題。 ☆ 市民センターは地域住民の窓口である。 ☆ 「なんにもしない合宿 in おおの」の目的のように、各世代が交流できる企画を継続することで、地域のつながりが高まり、防災、防犯につながれば、見守り活動にもつながり、困った人へのアプローチがしやすくなると思う。 ☆ 認知症になってもできることはあるので、活躍できる場づくりがあったらよい。認知症の人が運営する喫茶を提案したい。（コーヒー、紅茶、抹茶など）まずは週1回から初めて、在宅の障害者との連携も検討する。 ☆ 先月の町内一斉清掃では、昨年引き続き、参加人数が減少計画にあるとの報告があった。高齢化の進展や転入者の増加によって、地域行事への理解不足が考えられる。春の運動会も昨年よりは参加者減であった。地域の結び付き、感心、自治会の存在意義が年々弱まっていると思う。